

試験研究成果普及情報

部門	花植木	対象	普及
課題名：鉢花イチゴ「桜香」「紅香」の12月出荷技術			
[要約] 9月下旬に花芽分化を確認後、鉢上げを行い、最低夜温10℃の管理で、ミツバチを放飼すると、「桜香」「紅香」とも12月中旬に出荷できる。			
キーワード イチゴ、鉢花、作型、桜香、紅香			
実施機関名	主 査	農林総合研究センター・生産技術部・花植木研究室	
	協力機関	野菜緑化育種研究室	
実施期間	2007～2008年度		

[目的及び背景]

本県で新たに育成されたイチゴ2品種「桜香」、「紅香」(登録名称は「千葉S05-3」)は、花色がそれぞれ桃花と紅花で、従来の観賞用イチゴに比べ花が大きく、食味がよい等、鉢花としての新たな需要が期待される。イチゴの鉢物の多くは実取り用親株や緑化素材としての苗物流通が大半である。そのため、鉢花としての基本的な栽培管理方法や作型に関してほとんど研究されていない。そこで、需要が見込まれる12月出荷作型での栽培管理技術を確立する。

[成果内容]

- 1 ミツバチを放飼すると1番果着色日が「桜香」は3日、「紅香」は4日程度早まり、果実重が増加する。(表1、2)。
- 2 9月下旬に定植し、11月上旬より最低夜温10℃に維持し、ミツバチを放飼することで、12月中旬までに出荷が可能である(表2)。
- 3 基肥は、「桜香」「紅香」とも緩効性化成肥料(マグアンプK中粒、6-40-6)を4g/培養土L、追肥は、「桜香」では錠剤型緩効性肥料(プロミック、12-12-12)小粒(0.8g)を鉢当たり1粒月1回、「紅香」では中粒(1g)をポット当たり1粒月1回施用すると、大果の着色果実を付けたボリュームのある鉢物となる。(表3)

[留意事項]

- 1 鉢上げ後は施肥窒素の効果があるので、花芽分化を確認して鉢上げすること。
- 2 品種特性上小さい鉢でも、株張りは大きくなる傾向があるが、草勢維持のためには5号鉢が望ましい。
- 3 生育中は、炭そ病、ハダニ類やアザミウマ類の発生が懸念されるため、栽培環境に十分配慮し、防除に努める。

[普及対象地域] 県下全域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表1 ミツバチ放飼の有無が鉢花イチゴの生育に及ぼす影響

品種	処理区		草丈 (cm)	株張り (cm)	葉数	葉柄長 (cm)	葉長 (cm)	葉幅 (cm)	果実重 (g)	SPAD値
	ミツバチ									
桜香	有り		11.4	35.3	16.5	8.2	6.4	5.4	23.0	41.6
	無し		11.6	35.2	17.7	7.8	5.9	5.0	20.5	43.1
紅香	有り		9.5	27.1	13.9	6.7	7.9	5.0	13.1	48.6
	無し		10.0	26.5	14.5	6.6	5.5	5.0	12.8	48.2

注) 定植日：平成20年9月24日(5号鉢) 以下すべて同じ

表2 ミツバチ放飼の有無が鉢花イチゴの開花に及ぼす影響

品種	処理区		腋花 開花日	1 番果 着色日	開花数	着蕾数	花房長 (cm)	果実重 (g)
	ミツバチ							
桜香	有り		12月10日	12月15日	2.6	22.9	23.0	23.0
	無し		12月12日	12月18日	3.2	21.6	24.3	20.5
紅香	有り		12月 4日	12月11日	1.6	16.5	16.5	13.1
	無し		12月5日	12月15日	1.7	19.6	16.3	12.8

注) 一番果着色日は、果実の一部が赤色に着色し始めた時とした。

表3 施肥量の違いが鉢花イチゴの生育に及ぼす影響

品種	処理区		草丈 (cm)	株張り (cm)	葉数	葉柄長 (cm)	葉長 (cm)	葉幅 (cm)	果実重 (g)	SPAD値
	基肥	追肥								
桜香	2g	小粒(0.8g)	8.4	26.5	9.9	5.3	5.1	4.3	18.5	41.0
		中粒(1g)	11.9	32.9	13.3	7.7	6.0	5.2	21.8	43.1
	3g	小粒(0.8g)	8.8	27.4	11.3	5.4	5.4	4.6	20.4	39.3
		中粒(1g)	11.5	34.9	14.0	8.0	5.9	5.0	20.9	44.0
	4g	小粒(0.8g)	11.3	35.3	19.0	7.1	5.4	4.4	23.3	40.1
		中粒(1g)	10.5	31.2	14.4	7.0	5.9	4.9	21.8	43.2
紅香	2g	小粒(0.8g)	5.9	18.6	8.3	3.6	4.0	3.7	10.9	44.0
		中粒(1g)	9.1	25.2	13.0	6.0	4.9	4.4	13.9	49.6
	3g	小粒(0.8g)	7.6	21.3	10.8	4.3	4.6	4.1	15.6	44.0
		中粒(1g)	9.8	28.0	15.5	6.0	5.2	4.9	15.2	50.7
	4g	小粒(0.8g)	8.9	25.3	13.2	5.4	5.4	4.9	14.8	44.1
		中粒(1g)	10.7	30.6	20.0	7.0	5.8	5.1	14.9	51.0

注) 基肥は緩効性化成肥料(マグアンプK中粒、6-40-6)、追肥は錠剤型緩効性肥料(プロミック、12-12-12) 小粒(0.8g)、中粒(1g)で施用

[発表及び関連文献]

平成21年度試験研究成果発表会(花植木部門)

[その他]